

他誌掲載論文 (所属については投稿時のものを記載した。)

カンピロバクターの型別方法の検討と分離菌株 の特徴

甲斐明美*¹ 横山敬子*¹ 赤瀬 悟*¹
今野貴之*² 山田和弘*³ 坂田淳子*⁴
田内敦子 亀山光博*⁵ 原田誠也*⁶

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び
予防接種政策推進研究事業)国内の病原体サーベ
イランスに資する機能的なラボネットワークの強
化に関する研究 平成 27 年度分担研究報告書, 51
~53, 2016

7 カ所のカンピロバクターレファレンス支部セ
ンターで, 2014 年に散発下痢症患者から分離され
た *C. jejuni* 株について Lior 法及び Penner 法によ
る血清型別を実施した。その結果, Lior 法では 388
株中 286 株(73.7%), Penner 法では 388 株中 187
株(48.2%)が型別された。市販血清を用いた PHA
法及びマルチプレックス PCR 法との型別率を比較
したところ, PCR 法の型別率が高くその有用性が
示唆された。2014 年分離株のキノロン系薬剤に対
する耐性率は, *C. jejuni* では 57.1%, *C. coli* で
は 82.4%であった。EM 耐性率は *C. jejuni* で 1.3%,
C. coli では 35.3%であった。

*1: 東京都健康安全研究センター

*2: 秋田県健康環境センター

*3: 愛知県衛生研究所

*4: 大阪府立公衆衛生研究所

*5: 山口県環境保健センター

*6: 熊本県保健環境科学研究所

喘息症状を呈する患者からのエンテロウイルス D68 型(EV-D68)の検出—広島市 藤井慶樹 則常浩太 八島加八 山本美和子 石村勝之

病原微生物検出情報 36(12), 249~250, 2015

2015 年 9 月以降, 喘息症状を呈する患者の検体
についての検査依頼が極端に増加した。検査を実
施した結果, 37 人中 16 人(43%)から EV-D68 が検
出され, VP1 領域の系統樹解析の結果, 9 月以降に
本市で検出された EV-D68 は, 2014 年に米国での
重症呼吸器疾患の原因となった EV-D68 と近縁の
lineage2 に属していた。

今後も重症の喘息症状を引き起こす病原体とし
ての EV-D68 の動向に注視していく必要がある。

広島市で分離されたサルモネラのパルスフィール ドゲル電気泳動解析結果

千神彩香 青田達明 田内敦子
坂本 綾 石村勝之

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び
予防接種政策推進研究事業)食品由来感染症の病
原体情報の解析及び共有化システムの構築に関す
る研究, 平成 27 年度総括・研究分担報告書, 124
~132, 2016

2015 年に広島市内で分離されたサルモネラを
用いてパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法の
有効性を検討した。複数分離された血清型の分離
菌株 27 株について, 制限酵素 *Xba*I 及び *Bln*I で
処理し解析した結果, 類似度が比較的強く区別で
きた血清型と, 同一又は類似度の高いクラスター
を形成した血清型がみられた。これらの結果の解
釈としては, 株間に関連性がある, 又は血清型に
より遺伝的類似度が元来高いものがあるため区別
できていない等が考えられることから, さらに検
討が必要である。

市販カキからの胃腸炎ウイルス検出状況

山本美和子 野田 衛* 則常浩太
藤井慶樹 八島加八 石村勝之

厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進
研究事業)食品の病原ウイルスの検出法に関する
研究平成 27 年度総括・研究分担報告書, 179~186,
2016

2015 年 2 月に購入した市販生カキ 5 ロットにつ
いて胃腸炎ウイルス(ノロウイルス, サポウイルス,
アストロウイルス, A 型肝炎ウイルス, E 型肝炎ウ
イルス, アストロウイルス, エンテロウイルス,
パレコウイルス)の検索を行った。その結果, ノロ
ウイルスが 4 ロットから検出され, 他のウイルス
は検出されなかった。ノロウイルスの遺伝子型は
4 ロットから GII.17 が検出された。他に GI.2,
GII.3, GII.4, GII.13, GII.21 が各 1 検体か
ら検出された。

*: 国立医薬品食品衛生研究所